

江戸東京博物館から学ぶ江戸時代の歴史

2010年の夏、大学を卒業の後、友達と東京に卒業旅行をしました。東京でいろいろな場所へ行きましたが、一番日本について文化と歴史を体験できた場所は江戸博物館でありました。これから、江戸時代の面白さを紹介したいと思います。

江戸博東京物館はビルの7階がでしたが、展示は5階と6階にありました。入口は、6階で、そこでガイドさんに会って、博物館を案内してもらいました。

博物館の入口から、大きな日本橋の模型が見えました。ガイドさんによると、その模型は、本物の橋の幅と同じですが、長さは半分です。日本橋は東京と東海道（京都へ行く道）を結ぶ重要な橋でした。

模型の日本橋を渡って、江戸時代にタイムスリップするように、江戸ゾーンに入りました。そこには、小さい日本橋とそこの町の模型があって、その辺りに住んでいる人々の日常生活を示していました。そして、ガイドさんは武士の暮らしを紹介したり、寛永の武家屋敷の模型を見せたりしました。屋敷は上屋敷、下屋敷と中屋敷に分かれていました。その屋敷は、明暦（1657年）の大火で焼けてしまいました。

6階の展示の説明が終わって、5階の展示を見ました。そこには、木製の水道がありました。そして、消防士が使う道具があります。消防士は重い仕事道具を運んで大量の汗をかき、その汗で火傷から身を守っていたそうです。

次は、庶民の生活についてです。江戸時代の庶民の住宅一長屋と呼ばれる実物の大きさの模型があります。長屋に、いろいろな部屋がありましたが、住む所は一つの部屋に家族みんなで住んでいたそうです。部屋の中に人々の生活の展示もありました。例えば、匠が働く部屋やお母さんが赤ちゃんを産む部屋などです。その母親は、赤ちゃんを産んだら、ずっと横たわっていないで座り

ました。血が頭に入ってしまうという迷信がありましたから。赤ちゃんを入浴させるとき背中を外へ向けました。悪霊から守るためだそうです。

江戸時代の商業、店といえば、一番有名なのは三井越後屋だと思います。それは、今の三越百貨店です。三井越後屋の本店の模型もそこにありました。娯楽ならもちろん歌舞伎が有名で、博物館に歌舞伎の場所と舞台の模型も展示されていました。歌舞伎の場所に入る前に、小さいドアを通して、歌舞伎の世界に遊ぶようでした。舞台上、俳優たちが立って、ガイドさんによると、顔が赤い俳優はいい人を表わしますが、青いのは悪い人だそうです。そして、江戸ゾーンのご案内が終わって、自由にほかのゾーンへ見に行きました。

教科書の文と絵から学ぶのと違って、江戸東京博物館でいろいろなものを見て、体験すると、日本の歴史がもっと面白くなると思います。



Figure 1 : 江戸博物館の熊手



Figure 2 : ガイドさんと消防の道具



Figure 3 : 長屋の部屋



Figure 1 : 江戸時代の生活